

## 経済学入門 講義ノート

### 第2回 経済学とは何か (経済学では何を学ぶのか)

#### 本講義目的

- 経済学とはなにか、経済学が扱う基本的な問題とは何かについて議論する。

#### 1. 何故経済学を学ぶのか

1) およそありとあらゆる人が経済活動に関与している。

2) 社会生活を営んでいく上で必須の概念である。

避けて通ることの出来ない概念である。

#### 2. 選択 (Choice) 問題とは

経済学とは選択に関して論ずる学問である。

事例 バイト代で何を買うのが得か？

試験の前夜、一夜漬けでテキストを勉強するには、どの章を読むべきか？

社会が資源の最適利用を達成するためには、どうしたら良いのか？

#### 3. 希少性 (Scarcity) の概念と経済学の有用性

必要なものに限りがある限り、経済学が重要視される。

- |         |                    |      |
|---------|--------------------|------|
| • 財の希少性 | 限りある資源を用いて何を生産すべきか | 資源制約 |
|         | 限りある予算の下で何を消費すべきか  | 予算制約 |

殆どの財は限りのあるものである。

- |          |                  |      |
|----------|------------------|------|
| • 時間の希少性 | 限りある時間の中で何を行うべきか | 時間制約 |
|----------|------------------|------|

時代の変遷とともに、財に希少性が見出される場合もある。

- |            |  |      |
|------------|--|------|
| • きれいな空気・水 |  | 環境制約 |
|------------|--|------|

#### 4. 欲望の非飽和性と経済学の有用性

1) 人々の物理的欲望には実際上限りがない。

- 利用可能な財は多いほど望ましい。

- 限りない欲望 少ないよりは多い方が良い。

2) 個々の財に関しては欲望が満たされる場合もあるのではないかな？

- 食べ物かな？
- 廃棄の自由
- 食べ物を生産するための労力を他に向ける。

5. 選択問題とは

1) この講義では以下の選択問題について論じる。

- 何を生産（消費）するか。
- どれだけ生産（消費）するか。
- どこで生産（消費）するか。
- どうやって生産（消費）するか。
- いつ生産（消費）するか。
- 誰が生産（消費）するか。

6. 科学としての経済学

1) 経済学は社会科学であり、選択に関する問題を科学的に分析する学問である。

日本人にとって当てはまる物理学が、インドネシアでは当てはまらないようでは困る。

同様に、日本経済の分析に用いる経済学は、インドネシア経済の分析にも利用できるはずである。

2) 科学者であるはずの、経済学者の意見はどうして一致しないのかな？

- 外部の要因の動向をどう分析するか
- 公共政策への提言に価値判断が入ってくるため

3) 実証的分析と規範的分析

実証的分析 (Positive Economics)

公共政策への価値判断を含まない 政府が財政刺激策を強化しても景気改善しないなど

規範的分析 (Normative Economics)

公共政策への価値判断等を含む 政府は財政刺激策を強化すべきであるなど

4) 理論 (Theory)

経済学では、社会経済を抽象化し、現象の分析・説明を行う。

理論とは、社会経済現象を説明するために、一組の仮定 (あるいは仮説) をたて、それら

の仮定からインプリケーションを導き出すものである。理論では一般的に何等かの社会経済現象の因果関係を分析し、その理由付けを行う。従って、Economist がそれ程重要でないと思われる事項については捨象される。

#### 5) モデル (Model)

モデルは、理論を発展し精緻化するために用いられる。また、モデルは、一般的な関係 (サイン) を説明するために用いたり、数量的な関係 (サイズ) を分析したりするために用いられる。一般的に、数学モデルを応用する。モデルは、因果関係を示す。明確な因果関係を規定することが出来る場合もあるし、明確な因果関係を規定できない場合もある。

#### 6) 実証研究 (自然科学と経済学)

経済学は実験を行うことが出来ない。従って、理論やモデルの正当性を示すには、実証研究を行う必要がある。実証研究では、変数 (Variable) 同士の相関関係 (Correlation) を分析する。実証研究により、理論やモデルの「確からしさ」を調べることとなる。こうした分野では、統計学や計量経済学の助けを借りることとなる。

#### 7) 因果関係と相関関係

経済学では単に相関関係があるかを調べるだけでなく、因果関係を検証しようと試みる。しかし、因果関係の方向が明確でない場合がしばしばあり、利用可能なデータから因果関係を導くのは非常に困難な作業となる。

#### 8) 科学者であるはずの、経済学者の意見はどうして生じるのか (再び)

経済学者の意見の不一致は、モデルの相違によって生じているのか、量的な関係に関する推定の相違によって生じているのか、価値判断の相違によって生じているのか、見極める必要がある。

理論と実証研究は、経済学の両輪である。

#### 9) 経済学の種類

- ミクロ経済学 (取り扱うテーマ: 個々の企業や家計の行動)
  - ミクロ経済理論: 一般均衡論, 社会選択論, ゲーム論)
  - 応用ミクロ経済学: 国際経済学, 産業組織論, 農業経済学, 都市経済学, 環境経済学, 法と経済学, 実験経済学, 医療経済学 など
- マクロ経済学 (取り扱うテーマ: 国の経済状況)
  - マクロ経済学, 貨幣経済学, 金融論 など
- ミクロ経済学とマクロ経済学にまたがる分野

公共経済学，財政学を含む，労働経済学，開発経済学，人口学，ファイナンスなど

- 計量経済学（取り扱うテーマ：データを利用した検証方法の改善）

計量経済学，シミュレーションなど

- 経済史（取り扱うテーマ：歴史的な事項）

年代・地域・対象分野ごとによって多々